

北海道の労働と福祉を考える会 会報

# ～ともに生きる～

2011 年度 第21号

## 1. 新代表のあいさつ

労福会新代表として、1 年間携わってきた嶋田代表に、来年度に向けての抱負を語っていただきました。

### 『2011 年度もよろしくお願いします』

嶋田 佳広 (札幌学院大学 法学部法律学科 准教授)

木下先生から代表を引き継ぎ、あっという間の一年間でした。自分自身が本務校の関係で土日がつぶれることが多く、事務局長はじめ会員各位の献身的な努力がなければ、活動もどの段階で滞ってしまったか分かりません。諸事につけまことに至らぬことばかりで、不明を恥じるばかりです。

とはいえ、規定の整備や事務所の開設、金銭管理について、なにがしかの前進はあったと思います。もちろんできていないことは山ほどありますが、そういうときだからこそ、ポジティブに現実を見据えて、元気を奮い起こして、また新たな課題にチャレンジしていければ幸いです。感情論のレベルを超えて、ぜひ、建設的で地に足のついた会の運営に今後ともご協力願います。

政権交代の熱気も束の間、あれもダメこれもダメと、批判・非難・悲嘆が世の中をまた覆おうとしています。たまにテレビで見る国会審議などで強く思うことがあります。それは、例えばある一つの課題について、A という立場なのか B という立場なのか—それはそれとしてきちんとスタンスがなければ困るのですが—、ここにばかり視点が集中して、その先の、A と思う人と B と考える人がいる現状をどうやって次に進めていくのかの議論がなかなか進展しない状況です。熟議による合意形成どころか、独りよがり・独善的な主張と、自分とは違う考え方に対する想像力の欠如・無理解、そして無自覚が、社会全体としての創造力を失わせているように感じます。ことの大小はあれ、われわれも、ともすれば一方的な主張の開陳に終わることがよくあります。是非とも、没交渉を乗り越える知恵とバランスを、日頃の活動から培っていきたいものです。

## 2. 若手の想い

来年からの新体制スタートに向けて、今年一年労福会に携わった1年生たちは何を感じているのだろうか？  
高田晃太郎君と黒森理恵子さんの2人に、想いを語ってもらいました。

### 「焼き芋ホクホク」

北海道大学文学部1年 高田晃太郎

夜回りに初めて参加した人は最後に感想を言うことになっているのだが、僕はそのとき、次のような発言をした気がする。すなわち、「ホームレスと呼ばれる人たちには今まで暗いイメージを持っていたが、意外に明るい人たちが多くてびっくりしました」と。

しかし、労福会に入って月日を重ねていくにつれて、その見方も一面的であることがわかってきた。確かにおしゃべり好きのホームレスもいるが、人と喋るのが苦手な（嫌いな）、イメージ通りの暗いホームレスだっているのだ。これは僕にとって大きな発見だった。

路上で生活している人たちと実際に関わるようになってからの、1番大きな発見は「ホームレスにも色々な人がある」ということだ。当たり前のように聞こえるかもしれないが、これは、ホームレスの人たちと“実際に”関わってみて初めて実感できることである気がする。

というのは、世間は、ホームレスに対して「汚い」、「無気力」、「怠け者」、一方では「明るい」、「友達思い」など色々なイメージを抱いているだろうが、これらは全て一面的な見方でしかない。汚い人もいれば、清潔な人もいる。人と喋るのが苦手な人もいればお喋り好きな人もいる。そして、必死に仕事を探している人もいれば、そうでない人もいる。

要するに、ホームレスを一括りに見ようとする姿勢は間違っているのであり、そもそも不可能なのだ。ホームレスについて何か結論めいたことを口にするなんてできない。

ホームレスの年齢層やホームレスになった原因などを調べ、一般論を作ることはできるかもしれないが、彼らを支援するとき、そうした一般論は何の役にも立たない。大切なのは、1人1人個別に話を聞き、その人について考えていこうとする姿勢だと思う。

では、なぜ支援するのか。これは僕自身、時々疑問に思うこと。労福会の活動を続けてこれたのは、自分も将来ホームレスになるかもなあという不安もモチベーションになったし、労福会の活動自体がけっこう面白かった。そして、ちょっとした正義感もある。

例えば、何かを食いたいと思ったときに、オニギリ1つ買うお金がないとか、寒い夜なのに寝るところがないとき。しかもそれが毎日……そういう状態に置かれた人たちを想像すると、「何とかしたい」という気持ちがわきあがってくる。

だけど、脱路上しても（つまり、生活保護をもらい、最低限“健康な”生活を営むことができるようになっても）「孤独」とか「生きがいが無い」とか「仕事が見つからない」などの色々な問題が浮上してくる（脱路上自体は簡単だ）。最近では、脱路上後どう接していけばいいか？とよく考えるけど、いまいち思考が前に進まない。これが来年度以降の課題である。

# 「つながり」

北星大学英文学科1年黒森理恵子

ふと気がつくと、私が労福会に関わり始めてからもう半年以上が経過していました。今まで参加してきた夜回りや炊き出しを通じて、多くのことを学んだり感じたりしてきましたが、その中で一つ、改めて実感したことがあります。それは、「人を救えるのは、やっぱり人。人の心だ。」ということです。

北星学習会(北星学園大に通う労福会のメンバーが週に一度、お昼休みに集まって議論や勉強をするというもの)や会員の皆さんとお話などから、ホームレスになる原因の一つとして「人間関係の希薄さ」というものが挙げられるということを知り、ホームレスの方々は心のどこかで「孤独」というものを感じているのかなと思いました。この「孤独感」というものは、社会や家庭、友人などとのつながりを全て失ってしまった彼らにとって、簡単に消えてくれるものではありません。彼らの心のどこかにしっかりと根付いてしまっているのです。

しかし、この「孤独感」を少しでも軽減するため、私たちに出来ることがあります。とても簡単なことです。それは「コミュニケーションをとる」ということ。私たちが、夜回りや炊き出しで、ホームレスの方々と世間話や何でもないような会話をすることは、当たり前のことだけでも、とても大事なことだと思います。この小さなことが、少しずつ積み重なって、彼らの心の隙間を埋めることが出来るかもしれない、どこかで「人とのつながり」を感じてもらえるかもしれないと思うのです。人には人が必要です。人の心を癒すには、同じく人の心が必要です。当然のことのようだけれど、忘れてしまいがちなことです。私はこのことを労福会によって気付かされました。

今後は、このコミュニケーションの重要性を念頭に置き、さらにもう一歩踏み込んで、ホームレスの方々との間に信頼関係を築いていけたらと思います。また、労福会が彼らの「心の支え」となれるよう努力して参りたいと思います。

二人とも、今後の労福会の中心的な役割を担っていくメンバーですが、それぞれ支援活動の現場で当事者と向き合う中で、様々なものを得てきたようです。彼らの「想い」が、今後の支援に必ず表れるはずです。

## 3. 今年度後期の主な活動報告

- 8月21日 炊き出し(札幌市と共催)
- 8月29日 夏季ホームレス人数調査
- 12月11日 炊き出し(札幌市と共催)
- 1月29日 冬季ホームレス人数調査
- 2月19日 炊き出し(司法書士会と共催)

他、各月約1～2回の夜回り、生保同伴、居宅訪問、各種勉強会などへの参加を行いました。

## 会員募集・カンパのお願い

新規会員・スタッフは随時募集しております。少しでも野宿者の力になりたい、と興味を持たれた方は、学生・社会人に関わらず、ぜひご一報ください。

また、カンパもお願いしております。いただいたカンパは、野宿当事者支援のための活動資金となります。何卒、よろしくお願いいたします。詳しくは事務局までご連絡ください。

※会費・カンパの送り先

《郵便振替口座番号》

02730-0-37163

《口座名称》

北海道の労働と福祉を考える会

## ☆雑誌掲載のお知らせ☆

雑誌「ホームレスと社会」4号（明石書店、

4月刊行予定）に、「フィールドノート」と題し事務局三名（勝又・但木・中西）連名での拙稿が掲載されます。当会に課題が多くあることを率直に認めつゝ、それらが決して解決不可能なわけではないことを確信し、若者らしく楽観的に支援を続けていく決意と方途を記しております。ご一読いただければ幸いです。

## 編集後記

今年度は会報の発行が遅くなり、会員の皆様にはご迷惑をおかけしてしまい、申し訳ありませんでした。今年度は代表交代や、事務所の新設といった、会の体制が新しく変わっていった年でした。それと同時に混乱も多かったかと思いますが、それは新しい環境に慣れるまでのインターバルと考えれば当然と言えば当然かとも思います※会報が遅いのは別として（汗）。

また、来年からは新しい執行部のもと、よりよい路上生活者の支援を会員みんなで考え抜き、行動していきます。ぜひ遠慮なくご意見・ご指摘・応援など、よろしくお願いいたします。※次の広報の方も私と違って会報をしっかり出してくれると思います。

今後も、北海道の路上生活者が豊かな生活を取り戻せる日まで、ともに頑張っていきましょう。

＜発行元＞

北海道の労働と福祉を考える会

〒060-0010 札幌市中央区北10条西1丁目

4-1 近藤アパート201

編集責任者：庄井友輝

ホームページ：<http://roufuku.org/>

＜連絡先＞

電話：090-7515-8393

メール：[info@roufuku.org](mailto:info@roufuku.org)

※何かお気づきの点などございましたら、遠慮なく上記連絡先までお願いいたします。